

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893100061		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームかわにし緑台		
所在地	川西市緑台7丁目3番43号		
自己評価作成日	平成27年2月3日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティ・サポートセンター神戸
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104
訪問調査日	平成27年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まんてん堂の理念を目標に利用者様、家族様、地域の皆様が安心して利用できる施設を目指している。利用者様の思いに寄り添い出来る限りその方のしたい事を実現できるよう心掛けている。施設が散歩や外出に適していない為、屋上でイベントや、菜園を使用しその季節に応じた野菜や花を育て季節感を味わって頂けるようにしている。昨年は利用者様全員と家族様と一緒に京都にバス旅行に行き、今後も利用されている皆様楽しんで頂けるようなイベントを検討している。地域密着型の施設として地域の祭りや文化祭等に利用者様と一緒に参加、見学させて頂いており地域との関わりを大切にしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・自分達で作ったモットー「笑顔」を掲げ、利用者も職員もいつでも笑顔でいれるように努めており、明るい雰囲気である。・立地上の制約から散歩等に出掛けることが難しいため、屋上を活用した菜園に多くの野菜を植え利用者が自ら手入れや収穫に関わりながら外気を吸って楽しんでいる。また、閉塞感を解消するため季節を感じられるイベントを1~2ヶ月に1回は行っている。・昨年は利用者、家族、職員と一緒に計画を立てて京都の湯温泉まで利用者全員が揃ってバス旅行を楽しんだ。昼食と足湯を楽しみ利用者・家族と職員が繋がった一日であった。その時の笑顔の写真が壁に飾ってある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に研修を行い、左記にある内容を周知し管理者と職員は日々の業務において実践している。又、まんてん堂グループ内での他施設実習を行っており他施設で実習する事により職員が刺激を受けサービスの向上に繋がるように努めている。	法人の三つの理念を入社時の研修に説明している。また、その理念を基として自分たちが作ったモットー「笑顔」を壁に掲げ、いつでも利用者や職員に「笑顔」が見られるような事業所づくりに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会が行っている行事・イベント(夏祭り・文化祭・ほほえみサロン等)に積極的に参加し地域との交流を行っている。	利用者は近隣の「ほほえみサロン」に参加し、住民との交流ができています。自治会館での文化祭には、小さな折鶴を集めて作った花を利用者が出品した。ふれあいの場では住民から同行の職員に介護保険等の問合せもあり、認知症の啓発にも繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の行事・イベント参加時や運営推進会議に参加された方々に、施設の役割や状況を知って頂く様に機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	左記の内容を運営推進会議の報告、話し合いを行い、そこでの意見については本社とも連絡しサービス向上に活かす事が出来ている。	2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センター、数名の家族、知見を有する方等が参加している。利用者状況、事業所の体制、イベント情報、事故対策委員会等の活動を報告しており、家族との意見交換も活発である。その記録はいつでも見られるように玄関の決められた場所に置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡を密に取り、速やかな報告、連絡、相談に努め、連携を図っている。	運営推進会議には市役所の担当課や地域包括支援センターの職員が参加しており、適宜、報告・連絡・相談をするようにしているので、行政との色々な連携が取りやすくなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時研修で身体拘束研修を受けたうえで現場配置となっている。年に一回以上身体拘束の研修を行っており、事業所内で虐待防止委員会を立ち上げ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入社時ならびに入社後の年度研修計画に沿って、管理者や本社担当者が虐待防止と組み合わせる研修を行っている。建物の立地上、戸外に出るには難しい中で、広い屋上に菜園を作り、イベントや散歩に利用する等、利用者や職員の閉塞感を少なくしようと努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時研修で虐待研修を受けたうえで現場配置となっている。年に一回以上虐待研修を行っており、事業所内で虐待防止委員会を立ち上げ虐待防止に努めている。	研修では、神戸市高齢者虐待防止介護従事者研修用映像「よりよい介護をめざして」を使用して、不適切ケアとはを学び、ケース検討を行った後、職員の思い等について、話し合う。月1回職員と面談をすることを基本にして、疲労やストレスの把握に努めている。	職員の「心のケア」の相談窓口の設置等を法人全体として考えてみては如何でしょうか。また、虐待の背景因子の一つとして、入居後の経過を見ながら医療的な視点から利用者を再評価しては如何でしょうか。

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内では実施できていないが入社時の研修で左記の内容を学ぶ機会を設けている。	成年後見人制度を利用している方の後見人が来所された時に、その方に講師役をお願いして、職員や家族の希望者に説明会を開催したことがある。	今回は、対象を運営推進会議のメンバーに拡げて制度についての説明会を、再度開催されては如何でしょうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には口頭及び文書で説明を行い不安や疑問点に関しても関しても不安解消、疑問の解決に努めている。	契約時には、ホーム長が入居契約書、重要事項説明書等を中心にして約2時間掛けて説明している。転倒などの医療的な処置が必要になることがあること、希望によっては看取りも引き受けることなどを丁寧に説明している。利用者や家族からは費用面の質問が多い。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々の面会の際に、意見を聞く機会を設け運営に反映させている。事業所入口に意見箱を設置している。	運営推進会議に参加する家族は多く、意見は活発で、希望には都度対応している。ご意見箱も玄関に置いているが、訪ねて来る家族は多く、短時間でも出来るだけ話を聞くようにしている。家族会はあるがその活動状況については十分に把握していない。	家族会には色々なタイプがあります。急がず、家族に合った会になるように支援したら如何でしょうか。運営推進会議の前後に家族の集いを設けてみるのは如何でしょう。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内でMTGを行い意見や提案を聞く機会を設け又、リーダー、主任と連携し、職員からの相談事や悩み解決に向けて努力している。	管理者もシフト勤務に入っているため、職員と直接、会話ができる立場にあるが、月1回は職員と1対1の面談も行うようにしている。イベントの企画、実施する内容は職員自らが提案する。祭りに作った段ボール製の獅子頭は、機転を利かせた職員の労作であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社としては左記の内容について日々検討し職員が向上心を持って働けるように評価制度導入、研修実施、職員の負担軽減に向けて整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修の希望があれば、その研修に応じた講師を施設に派遣し又、法人外での研修に関しても出来る範囲で参加に向けて努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での事業所交流会は定期的に行っている。まだ実施できていないが川西市内のグループホーム連絡会では同業者との交流の機会作りに向けて話し合いを行っている最中である。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人、家族と面談や施設見学の機会を設け安心して利用して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談時に家族の悩みや困り事を解消出来る様に懇切丁寧に話しを聞き相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に本人、家族の状況や要望を確認した上で自施設のサービスだけではなく他の介護サービスについても説明し本人、家族にサービスを選択して頂ける様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り自立した生活を営んで頂ける様に本人の出来る事、出来ない事を見極め能力を最大限活用できる様に職員一同ケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時には家族に連絡・相談し又、運営推進会議や面会時に本人の状況を伝え一緒に支援していく様に関係作りに努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲で家族・友人・知人との面会を歓迎し又、家族の協力により自宅や馴染みの場所にお連れ出来る様に提案し関係作りに努めている。	親類縁者が集まる時には、出来るだけ自宅に帰れるよう支援して、馴染みの関係が継続するよう努めている。利用者の希望に合わせて昔住んで居た馴染みの場所にドライブしたり、馴染みの美容室に職員が同伴で通っていたこともある。	入居すると生活の幅が狭くなり閉塞的になりがちです。利用者同士の馴染みの関係が二つのユニットで全く異なり、雰囲気や温度差があるようですが、その違いがどこから来るのか話し合ってみては如何でしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り協力して共同生活を営める様に一人一人の性格や出来る事を把握し職員が間に入り、支え合える支援に努めている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今後の利用先とも連絡を行ったり家族から相談があれば出来る範囲での協力が出来る様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やご様子、またはご家族様からの情報を頂き、その人本来のあるべき姿に出来るだけ近い状態で暮らしていけるよう支援している。また御自分からご意向や思いを伝えきれない方は日々の生活の様子や仕草などから汲み取るように心がけている。	自分の言葉で声に出して表現しにくい人には、事業所がモットーとしている「笑顔」が出る場面に特に注意を払い、できるだけ本人の思いに近づけるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活状況の把握を行い、その人らしい生活を送れるように努めている。意思表示の難しい方には、家族の意向を確認したり、本人の状態により家族に分かる事を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や体調の変化など見逃さないように支援しながら様子観察をし、状況を介護記録に記載。毎日の申し送りや記録を振り返り、ケアカンファレンスで意見交換し、アセスメント要約表も活用している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人、家族、職員と話し合いの場を設けている。必要に応じて、主治医・訪問看護師へも相談している。また毎月のケア会議でも職員間で意見交換を行い、現状に即した支援が出来るか振り返り、次の計画書を作成する際参考にしている。	フロアリーダー・ケアマネ・主任らが参加する月1回のフロアミーティングで、利用者の様子の変化等についてモニタリングを行い、必要があれば見直しを行う。特に変化のない場合も、半年に1回計画の見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を個別に記録、職員間での情報を共有する為に、変化や気づき等記入する「申し送りノート」を活用している。また、計画書更新時は、必要な時はフロア職員にモニタリングを行い見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時、家族様のみでの対応が厳しい時は、送迎、付き添い、移乗等行っている。ご家族が遠方の場合、衣服や身の回りの生活用品の購入など家族に代わり行っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に必要なニーズに対応する為、地域の資源を活用して、その人らしい暮らしの実現出来るよう支援している。 地域の行事に、参加して地域との交流を図っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、定期的に往診があることをお伝えし、ご家族様と話し合う。病歴を考慮しつつ、入所前のかかりつけ医を専門医(眼科・神経内科など)として継続受診されている方もいらっしゃる。	殆どが協力医療機関をかかりつけ医としており、往診もある。かかりつけ医が他の病院の場合には、家族が付き添うが、不可能な場合はスタッフが対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の前々日には、事前に身体情報を提供し、訪問時直ぐに対応できるように連携を図っている。訪問以外の日でも電話相談出来る体制を整えている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の関係者、ご家族様と密に連絡を取り、安心して治療出来るように情報提供をし、入院時の様子を把握するように努めている。出来るだけ早く元の生活に戻れるように、医療関係者、家族様と一緒に相談出来るような場を設けるなど関係づくりに努めている。	退院時には、共同生活の継続可否、日常生活に必要な医療的処置、さらにグループホーム内におけるスタッフの対応の仕方など、医療機関から意見や助言をもらえる関係作りができています。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を定めている。終末期の支援については、施設で出来ることを十分に説明した上で、入居者様にとって最善の看取りを選択できるよう、本人、家族、医療機関等話し合うようにしている。	事業所として、終末ケア対応の経験が一件ある。基本的には、入居契約書に重度化の場合の指針が定められており、具体的な方法など必要に応じて相談できる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には、救命講習の受講を推進している。急を要する時、適切に初期対応をし、救命できるように今後も定期的な受講を推進し、必要とする時実践できるようしたい。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害に備え、消防署の指導の下午2回施設全体で合同訓練を実施。昼夜問わず利用者が非難出来るように内容訓練を行っている。近隣の施設の協力を頂いていたが、閉館となった為、今後構築が必要である。	年2回の避難訓練は、消防署の指導を受け実施している。また、運営推進会議においては、地域包括支援センターより、避難先として受け入れてもらえるかとの質問があった。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の先輩であるという尊敬の念を持ち人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけができるよう努めている。普段から表情や動向に注意し言葉かけを行っている。	加齢とともに人となりが一層個人的になってくる利用者に対して、スタッフは人生の先輩としての尊敬の念を持って対応に努めるとともに、共同生活の場で、人間関係上のストレスも軽減できるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で密にコミュニケーションを取り、利用者様の思いを大切に自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の今までの生活リズムも大切にしながら施設都合にならないように利用者様のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で服の選択ができる様に利用者様に確認しながら支援している。家人様より要望のある時は一緒に買い物に行き選んで頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に無理のない範囲で食事の準備や片づけをお手伝い頂いている。又、食べられないメニューがある方については代替メニューを用意している。	月3回の食事レクリエーションでは、利用者とはスタッフと一緒に朝昼夕の献立づくりや調理等に取り組み、行事メニュー、鍋物、たこ焼き等を楽しんでいる。訪問調査日も下膳や後片付けなど、誰とすることなく自発的に行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、水分量はしっかりと記入し、把握している。水分量の少ない利用者様にはその方の事を考えこまめに提供している。家人様が好みの食事を持参される時は提供させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している就寝前には義歯を使用されている方は職員がお預かりし義歯洗浄剤を使用し保管している。週一回の訪問歯科により、ケアや必要時には治療を行っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムを把握しトイレで排泄できるように支援している。日中リハビリを使用されていた方が排泄パターンを知る事で日中下着対応が出来ている。	適時適切でさりげない声掛けに努めており、リハビリや尿取りパッドを使用している方が日中はトイレで用を足せ、普通の下着が使用できるようになった例もある。夜間も一人一人のパターンを把握し、タイムリーな声掛けでトイレ誘導ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操を実施し、主治医、訪問看護師と連携を取り、排便コントロールを行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のタイミングに合わせ楽しんで入浴して頂けるよう入浴剤なども使用している。	週3回の入浴を基本としている。その時の体調や気分から入浴に応じてもらえない場合は、タイミングを見計らい、再度声掛けして2日に1度の入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の今までの生活習慣を大切に可能な限り、就寝時間、起床時間はその方のリズムに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイルし全職員が把握できるようにしている。主治医や薬剤師とも連携が取れるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事や得意な事を把握し役割を持って頂いたり趣味の時間も大切にしている。施設内で麻雀クラブや手芸クラブ等楽しんで頂けるような支援も行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は現在は難しいが家族様の協力での外出や外部の外出支援を利用されている方もおられる。又、個別レク、遠足、地域行事には外出支援を行っている。	建物の立地上、日常的な外出は難しいが、屋上スペースに菜園があり外気浴ができる。また家族と外出を楽しむ方もある。地域の行事のお誘いがある時は、体調の良い方にスタッフが付添い参加している。季節ごとにバスツアーやお花見などにも出かけ、その様子は「かわら版」で施設内に張り出している。	

自己評価および第三者評価結果

まんでん堂グループホームかわにし緑台

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を行うことが困難であり盗った盗られた等の問題防止の為、利用者様にはお金を所持して頂かず、買い物等で必要な場合は会社で立て替え、後日家族様にお支払い頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をしたいと希望があれば家族様の都合も確認しながら対応している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けを行い季節感を感じて頂けるよう配慮している。又、ソファの位置やテーブルの位置なども居心地良く過ごせるよう考えている。	リビングの中央に置かれているソファは、間仕切りの役割もしており、食事後の居場所や時間の過ごし方など、一人ひとりの生活空間や時間の確保ができるような配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを中間に置きテーブルを北と南に分けて置き2つの空間に分けており思い思いに少しでも過ごせるように努めている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の中で使い慣れた物を持ってきて頂き自宅と変わりなく安心して生活が出来るように福祉用具等も取り入れている。	これまでの生活で使い慣れた調度品を持ちこまれているが、必要なものを中心に配置して、思い出の写真や品物が好みに合わせて飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事を把握し、出来る事はして頂けるよう自立支援に取り組んでいる。		